

令和4年度 1学期始業式 校長講話

令和4年（2022年）4月5日

長野県中野西高等学校長 弓削 弥生

みなさんおはようございます。

令和4年度が今日から始まります。まずは3年生、2年生、それぞれ進級おめでとうございます。

昨年度の後半は新型コロナウイルス感染症予防のため、授業の多くがオンラインとなりました。春休みもあり、久しぶりの学校での友達や先生との再会ですね。皆さんはこの休業中、どのように過ごしていたでしょうか。

新型コロナウイルス感染症との戦いは長期戦となっています。毎日学校へ登校し、授業を受け、仲間ととりとめのない会話をしたり、部活動に励んだりといった「当たり前だと思っていた日々」が、当たり前のものではないのだと実感させられます。

今後も感染について明確に見通せない中ですが、これからの日々も当たり前ではない、一日一日がかけがえのない時間です。是非、大切に過ごしていきましょう。

さて、皆さんもご存じのように本校は平成27年に県内の高校として初めてユネスコスクールに承認されています。

年度のはじめにあたり、改めて「ユネスコ」ってどんな機関か復習してみましょう。

20世紀私たちは二度の世界大戦を経験しました。1914年に始まった、ヨーロッパを中心とした第一次世界大戦、そして1941年から、アジアまでに戦域が拡大した第二次世界大戦です。おびただしい流血、命の損失、建物や自然環境の容赦なき破壊を残して、それぞれの大戦が終わったとき、戦争のない平和を築き、みんなが安心して暮らせる社会を、人々は願いました。二つの大戦のあと、それぞれ国際連盟や国際連合が組織され、平和を守るための活動をしてきました。ユネスコは第二次世界大戦後の国際連合の一専門機関となっていますが、実はその前身は第一次世界大戦後の国際連盟の頃に、既に発足しています。

ユネスコ憲章の前文に有名なフレーズがあります。

『戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなくてはならない』というものです。ユネスコは第二次世界大戦の反省から、教育・科学・文化の国際協力を通じて平和をつくる努力をしています。

さて、中野西高校はユネスコスクールであります。私たちの使命はこのユネスコの理念を実現するため、ESD、持続可能なための教育の拠点校として、環境や地域活動、異文化理解を世界中に広げていかなければなりません。

世界には環境、貧困、人権、平和、開発といった様々な問題があります。そして現在、2月24日ロシアによるウクライナへの侵攻が始まりました。現在進行中の出来事とは思えない光景が現実には起き、日本でも毎日報道されています。どうしてこのような状況になっているのか、日本を含めて世界の国々はどのような対応をしているのか、そして自分はどういうことを思うのか、これを機会に考えて欲しいと思います。歴史を繰り返さないために、私たちは、未来の自分の社会、世界、人類のために学ばなければなりません。

日本のユネスコ加盟は政府の高官が決めた物ではありません。平和を願う人々があちこちで団体を立ち上げ、そうした人々の熱意が政府を後押しして、ユネスコに加盟しています。是非、ユネスコスクールで学ぶ中野西高校の皆さんには、そういった理念を強く感じ、ウクライナ侵攻も含め世界の諸問題を自分ごととしてしっかり考え、皆さんが主役で生きる時代、そしてその後続く世界が幸せであるために、努力を続けて欲しいのです。

さて、3年生は高校生活最後の年になります。一つ一つの行事に「高校生活最後の」という修飾語がつきます。教職員も全力でサポートしますが、一番大切なのは皆さん自身の頑張りです。ぜひ、一人ひとり自分の努力で進路希望を実現して欲しいと願っています。

2年生は明日新入生が入学して先輩となります。また多くの部活動では、早ければ5月中旬に3年生が引退し、その後を引き継いで、最上級学年として新入生を引っ張っていかなければなりません。秋には生徒会を引き継ぎ、その頃には3年に向けた準備も本格化します。意外と時間が少ない学年です。

大切な時間の中で、私たち生徒も先生も、縁あって出会い、中野西高校で一緒に学んでいます。「心の平和」を意識して、お互いを尊重し合って、だれもが安心して過ごせる学校を、さらに目指しましょう。

皆さんが元気に活躍してくれることを期待して始業式の話とします。